

ほとけの 混和会だより

平成二十八年十二月

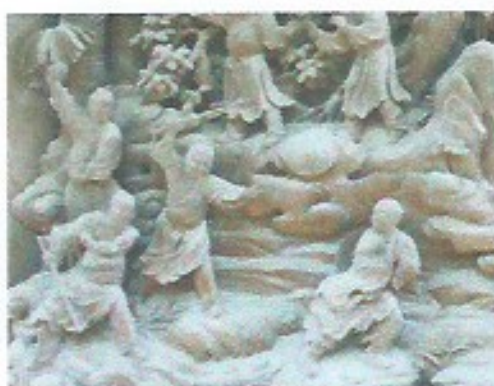
東光院

仏の混和会

第123号

私達は何の為に 生きているのか

NO.1



常不軽菩薩受難の図

私達は、何の為に生まれて来たのか？
何の為に生きて居るのか？
この世に生を得た目的は？
生きる事の使命は？
これは大変な難題ですが、私達が生きる上に置いて避けて通れない大切な課題でもあります。しかし、私達は世間の様々な意思に振り回され、本来の生きる意義を見失っているのが現実です。私自身、「このような私にも、生きる事」の目的があるのだろうか、使命

のようなものが有るのだろうか？などと世間の人々と己を比べて己の未熟さを悲観し投げやりになりに落ち込む事もあります。いや、私以外にも生きる事の使命も目的も見いだせず、どこに向かおうと歩んで行ったら良いか歩む方向が見えずに、自ら命を絶つたり、投げやりになって大きな事件を起こしたりする人もいます。これは私一人の問題では無いようです。
よって、私達はなんの為に生きて居るのか、どこに向かおうと歩んで居るのか、今回よりブツダの御教えと菩薩として生きた人々の生き方から少しづつ己自身の生きる目的と使命を探って見たいと思います。
先ず、結論から申し上げますと「私達は仏に成る為に生きて居る」と言う事が言えるかと思えます。いわゆる「成仏」です。と言いますと「人は死ぬ為に生きて居る」などという人もいます。がそうではありません。
仏とは、「仏陀」の事であり、真理に目覚めた人であり、真理によつて仏に成るとは「命の真理」に目覚めると言う事なのです。その仏の境地をめざす人を菩薩と言っております。ですから私達も菩薩として生きる事によつて、生きる事目的も使命も喜びも見えて参ります。



ねーねー、お坊さん
今回のテーマと
上の写真、なんか
関係あるのですか？



そうじゃな
上の写真は柴又の
帝釈天堂の彫刻の
一部なんじゃが
常不軽菩薩さんが、人々より
迫害を受けている所なんじゃよ
今回のテーマは
「人はなんの為に生きて居るのか」
このテーマを常不軽菩薩さんの生き方から探ってみようと思ってるのじゃよ。
先ず常不軽菩薩さんの生き方を簡単に説明するね。
常不軽菩薩さんは、お経を唱える事も説法をされることもせずただただ、僧侶も世俗の人もみんな悉く礼拝して「私は深く貴方を敬います。軽んじるような事は致しません。なぜかと言うと貴方はみんな菩薩の道を行じて仏に成る身だからです」と、どのような人でも敬い礼拝されたのじゃよ。
すると人々は、その言葉に怒り「お前のような無知な坊主に、いずれ仏に成ると言われ敬い礼拝されても嬉しくも何ともない」とつと立ち去れ」と、罵倒され、ののしられ、杖で追ひ払われ、石を投げつけられながらも常不軽菩薩はその場を逃げて、更に遠くから「私は貴方を敬い礼拝する」と合掌礼拝されて敬いの念を抱かれたのじゃよ。

これは、生きる事の意義に付いて確信と強い信念が無いと出来る事では無いのじゃよ。
たとえは、人々に、「貴方の心の奥底に潜む尊い御心によつて、将来多くの人々より崇拝される尊い人になるでしょう。その貴方の仏性を敬います」と礼拝したところ、「お前に敬ってもらいたくない」と罵倒され、ののしられ、非難され石を投げられたらどうする。
悔しさと怒りの念を抱き、「こんな事をして何になるのだろうか」と疑問を抱く事と思うよ。
常不軽菩薩さんは、己の悟りの為で無く、二びを亮る為でも無く、又どのような状況に於かれても、人々を敬い礼拝されて、人々の心の奥底に眠っている仏性が目覚めるように、そして安らかな悟りの境地に至れるように礼拝に生涯を費した菩薩さんなんじゃよ。
そして礼拝行に徹した常不軽菩薩さんは、お亡くなりになられたのじゃが、その生まれ変わりが、なんとお釈迦様と言ふのじゃよ。
お釈迦様の前世は常不軽菩薩だったのじゃよ。どうだい信じられるかな「輪廻転生」が信じられない人は、「進化」と受け止めると解りやすいよ。命は脈々と続いて居るのじゃよ、永遠の命と言ふ事なんじゃよ。
一代かぎりの命と受け止めた時は投げやりになりかねないけど永遠と続く命だから仏の境地を目指し菩薩として生きる事によつて、一人は何の為に生きて居るのか」と言う大きな課題も生きる目的も指針も喜びも見えてくるのじゃよ。亮観



日本仏教に登場する仏様を、番号少しづつご紹介。今回は明王部の降三世明王をご紹介します。



京都府 醍醐寺
降三世明王像

●明王部 降三世明王

聞き慣れない名前に三つの顔。そして八本の腕には数々の武器を持ち恐ろしい顔で人を踏みつける。仏様としても異色な姿をしている降三世明王ですが、実は数多くいる明王様の中でも五大明王の一人とされ東の方向を護られている仏様です。

降三世明王の「三世」とは三つの世界とさう意味で、過去・現在・未来であり、三毒(貪り、怒り、無知)を表しており、降三世明王は過去から未来まで、貪りや怒り、愚かさと言った煩惱を神仏の力によって防ぎ押さえるという誓いを表しています。

また、二本の手で印を作り、残りの手には煩惱を仏の智慧でもって素早く射貫き導くための弓矢などを持っておりま。

では、なぜこの様に恐ろしい姿をされているのかと言いますと、インド

にて仏教が生まれた当初、同じインドにて信仰されているヒンドゥー教の優れた神様を仏教にも取り入れるという事が行われました。その際、ヒンドゥー教において最も優れた神であり、破壊を司っていたシヴァという神様は自分こそ世界の支配者であるとして力を持って仏教に従いませんでした。

それに困った大日如来は、怒った姿でシヴァ神の前に現れ、怒りや貪りと言った煩惱を振りかざしてはいけないと力をもってシヴァ神を降伏させたと言われています。

その時の怒った姿というのがこの降三世明王とされ、足下にはシヴァ神が踏みつけられています。

この様に、破壊の神であってこそその怒りを抑え込む力を持った降三世明王は人々の抱え込む、迷いや怒りと言った煩惱を消し去る御利益を持った仏様です。もし、人には言えない悩みや怒りと言った感情を抱えたとき、こちらの仏様をお参りすると若しかしたら解決の糸口を教えてくださいませんか。

余談……では、踏みつけられたシヴァ神はどうなったと言いますと、降三世明王によって仏教を護る神様として今ではお正月に見る七福神の一人、大きな袋に小槌を持った大黒天に姿を変え人々を見守ってくれています。

亮澄拝

秋も深まり



秋も深まり紅葉が美しくなる一方、朝晩の冷え込みが厳しい季節となつて参りましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

行秋ない岸法し要たを

さて、去る九月二十二日、東光院本堂ならびに平成霊園の観音様の前にて秋季彼岸法要が行なわれました。

ここ数年、彼岸法要は平成霊園と本堂の二カ所で、午前と午後の二回に分けてお勤めを行なっております。

今回も多くの方がお参りされて、御仏に又ご先祖様に手を合わせておられました。



また、昨年同様 印西茶道連盟の五十嵐先生のご厚意のもとに「喫茶去」お茶席も同時に開かれ、彼岸参りに来られた方全員を対象に、お抹茶と美味しい和菓子が振る舞われました。



五十嵐先生は私の通っていた幼稚園で園児を対象に、茶道教室を開いて下さった先生で、今回のお茶席では初めての方でも入りやすいようにと難しいお作法は気にせず、本格的なお茶とその雰囲気味わうことが出来ました。



余談ですが、茶道と仏教には深い関係があり、喫茶去(きつさ)とは中国の禅問答によるものです。

今年の蕎麦は

毎年恒例となつております東光院の、ほとけのおそば。今年は大変残念なお知らせが御座います。

九月初旬の種まき後、長く続いた天候不順のために、今年は発芽や生育が過去にない程に不良と成つてしまい収量が見込めないことから、秋の恒例行事でありましたそば刈りは中止とさせて頂きました。

ある方に聞いた話ですが、そばは自家受粉が出来ない為、

どんなに花がきれいに咲いても、雨が続き虫が飛べなければ実をつけることが出来ないのである。

来ないそうなんです。亮敬拝

